

果樹の生育状況について

I 気象（三戸アメダス、7月～）

気温は7月中旬以降高く経過しており、特に7月第4半旬の最高気温は平年より7.4℃高い34.3℃であった。日照時間は7月上旬が平年より少なく、7月中旬以降は平年を上回っている。降水量は7月が平年比67.5%、8月上旬が同132%であった。

II 生育状況

1 りんご

果実肥大は、7月の降水量が少なかったことから鈍化傾向にあるが、初期生育が良好であったため、8月1日時点では平年を上回っている（表1）。

表1 りんごの果実肥大

（単位：cm、%）

地点	品種	年	6/1	6/11	6/21	7/1	7/11	7/21	8/1	8/11
三戸町梅内	ふじ	本年	2.1	3.0	3.7	4.4	5.1	5.6	6.2	6.7
		平年	1.5	2.4	3.3	3.9	4.6	5.3	6.0	6.5
		前年	1.4	2.3	3.1	3.9	4.6	5.1	5.9	6.3
		平年比	140	125	112	113	111	106	103	103
	つがる	本年	2.5	3.6	4.6	5.6	6.6	7.3	8.0	8.4
		平年	1.7	2.8	3.7	4.5	5.4	6.3	7.1	7.7
		前年	1.7	2.9	3.8	4.8	5.7	6.4	7.1	7.6
		平年比	147	129	124	124	122	116	113	109
	ジョウダンレッド	本年	2.4	3.3	4.3	5.1	5.8	6.4	7.0	7.4
		平年	1.7	2.7	3.6	4.4	5.2	5.9	6.6	7.2
		前年	1.7	2.8	3.7	4.5	5.3	5.8	6.5	7.0
		平年比	141	122	119	116	112	108	106	103
八戸市櫛引	ふじ	本年	1.9	2.8	3.6	4.3	5.0	5.5	6.1	6.6
		平年	1.5	2.3	3.2	3.9	4.5	5.2	5.8	6.4
		前年	1.6	2.6	3.4	4.2	4.9	5.4	6.2	6.7
		平年比	127	122	113	110	111	106	105	103

平年値：平成13年～令和2年までの平均

2 もも

「あかつき」の収穫始めは、平年より5日早い8月6日頃であった。

3 ぶどう

「キャンベル・アーリー（露地）」の着色日は、平年より6日早い8月8日であった。「キャンベル・アーリー（ハウス）」の収穫始めは、平年より1日遅い8月3日であった。

Ⅲ 今後の対策

1 共通（風害防止対策）

台風の接近や強風に備え、棚、支柱、防風網等を再度点検し、必要に応じて補強や補修を行う。また、幹や主枝などに空洞などが生じている樹は支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

2 りんご

（1）摘果

全般に着果量が多く、霜害によるサビ果や変形果がみられるので、必ず見直し摘果を行う。

（2）徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

病虫害の発生源を減らし、薬剤と日光の通りをよくするため、不要な徒長枝は切り取る。果実が大きくなると枝が下がってくるので、支柱入れや枝吊りをする。

ただし、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

（3）「つがる」への落果防止剤の散布

ア ストップール液剤 1,000倍

8月15～20日頃に単用散布する。極端な早期散布や2回散布、着色促進剤との併用などは、果実の軟化や油あがり著しく早まるほか、年によって裂果やつる元の腐敗などが多くみられるので、絶対に行わない。葉摘みは散布4～5日後から始める。散布後7日間は収穫できないので注意する。

イ ヒオモン水溶剤 2,000倍

8月20～25日頃に単用散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。なお、ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

（4）斑点落葉病対策

一部園地で「王林」や「ふじ」にみられる。高温多湿条件で急増するので注意する。急増の恐れがある場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。

3 もも

(1) 収穫

果実の着色や地色の抜け、手触りなどから収穫適期を総合的に判断する。

なお、雨やくもりの日が続いた場合や夜温が高い場合は、着色が進まずに果肉が熟していくので、着色を待ち過ぎず、果実の硬さで判断する。

(2) 病害虫対策

せん孔細菌病が一部園地でやや多い。夏型枝病斑は伝染源となるので、見つけ次第切り取って処分する。



せん孔細菌病の夏型枝病斑

4 西洋なし

(1) 収穫

早生種「プレコース」の収穫が8月下旬から始まるので、満開後日数、地色、表面色などから総合的に判断し、適期に収穫する。

(2) 輪紋病対策

中・晩生種では「8月最下旬」と「9月中旬」が重要な防除時期なので、必ず薬剤散布を行う。

5 すもも

(1) 収穫

「太陽」等の収穫が始まるので、満開後日数、着色、地色の抜け具合など、品種の特性を踏まえて適期に収穫を行う。

(2) 病害虫対策

黒斑病がみられているので、伝染源となる夏型枝病斑は剪去して処分する。

シンクイムシ類対策として、被害果をそのまま園地に放置すると次世代の発生源となるので、見つけ次第摘み取り、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

6 ぶどう（露地栽培）

(1) 収穫

収穫は品種特有の着色を示し、芳香を放ち、食味も良くなり固有の風味に達してから行う。なお、「キャンベル・アーリー」は低い糖度でも着色し、未熟果が収穫されがちなので、果皮色が紫黒色となり品種固有の食味に達してから収穫する。